



田舎暮らしの日常に映画があればますます充実した生活になる、と映画好きな仲間が寄り集まって同好会を立ち上げたのが2014年。映画を観るなら大きなスクリーンで、と伝手を頼りに映写設備を持っている会員にお願いして借用し、上映会をはじめました。それから早くも10年が過ぎ、当時の仲間も、鬼籍に入った人、病氣から施設に入所した人、北杜から遠くへ移転した人など入れ替わりがありますが、コロナ禍も乗り越えて10年間、絶やさずに続けてきました。2か月に一回ごとの映画会で、今回で60回目となり、裏面に掲示するような作品をこれまでに上映してきました。その一つひとつが思い出となり、観た人の記憶に残っていると思います。残念ながら、世界では紛争、戦争が止みませんが、映画を通じて平和を希求する思いは強まったと信じます。これからも20年への歩みを続けようと世話人一同一致した決意でいます。(若月雅英、秋山輝雄、秋山幸子、中村研一)。

上映作品：『ニュー・シネマ・パラダイス』
(イタリア、1989年公開、ジュゼッペ・トルナトーレ監督作品、124分)

映画愛にあふれる作品は内外にいくつも存在しますが、上の作品に決めました。映画の魅力は娯楽性に留まらず、ときには人生に大きな影響を与える力ももっている、それを実感させてくれる映画として選んだのが、郷愁を駆り立てる音楽でも忘れられない本作です。鑑賞のあと、茶菓を口にしながら、映画について語り合えたら10年の節目にふさわしい「映画会」になるのではないのでしょうか。(囲みでは会員の荒川さん、瀧村さんからひとことづつ映画についてコメントをいただきました)



上映会日程：10月7日（月）、午後1時30分開会
会場：日野春学園「ふるさと倶楽部」談話室（理科室）
参加費：200円（申し込みは10月3日（木）までに、下記世話人へお知らせください。）



*中村研一（090-9975-3571）、*若月雅英（32-8008）、

*秋山幸子（090-7637-7356）*秋山輝雄（090-2749-9660）

『この会でも多くの映画を見たが、人生で最も古い記憶は、夏の夜小学校庭で見た「青い山脈」（1949）だ。主題歌（藤山一郎）は今でも歌える。洋画では「シェーン」（1953）が印象に残っている。初めて友人と大阪難波の映画館に見に行った。ラストシーン、アラン・ラッド扮するガンマンが去っていく背後から少年が呼びかける「シェーン・カムバック」というセリフが今も耳底に残る。その後数多くの作品を見てきたが、一二点あげると言われたら「第三の男」と「ひまわり」だろう。戦後を描いた映画は多数あるが、アリダ・ヴァリ（欧州）がジョセフ・コットン（米）を無視して冷たく去っていくラストシーンには痺れた。後者はウクライナのひまわり畑のソフィアローレンの姿に尽きる。この4作、いずれも音楽が素晴らしい。映画が長く印象に残るのは、ストーリーや女優、見る人の状況だけでなく名音楽だとしみじみ思う（私と映画 荒川雄彦）』

『映画は子供の頃からで、夏休みに小学校の校庭で見始めました。ウォルト・ディズニーの漫画映画に始まり、ニュース映画も見ました。その頃から映画に興味を持つようになりました。中学・高校と学校に行っても興味はあったのですが、高校からは、テレビで見るということが出来るようになりました。映画はテレビで見るのとは違います。映画を見るのに小学校の教室で見るのは結構楽しく、毎回参加させて頂いている状況です。（瀧村紘一）』